

(37) 手力神社 (てぢからじんじゃ)

住 所：三重県伊賀市東湯舟1025

TEL：0595-52-0153

参拝日：2013年7月10日

主祭神：天手力男神 (あめのたぢからおのみこと)



鳥居と拝殿



祈願符を結んだ鈴



本 殿

手力神社の扁額の掛かった明神造りの石の鳥居をくぐり、コンクリで囲った池に架かる橋を渡ると、左手に御神木のスギの大木がある。正面の拝殿には沢山の祈願符を結びつけた大きな鈴がさがっている。本殿は枕木が6本で外削りの千木のある神明造である。境内には伊賀忍者三大上忍の一人である藤林長門守長門守の第四世富治林正直が献灯した石灯籠がある。社叢にはスギの他ヤマモモ、ヤブツバキ、タカノツメ、ヤマウルシ、サルトリイバラ、ヌルデ、アセビ、サカキ、アカガシ、ウメモドキ、シラカシ、シイ、コシアブラ、ヒノキ、キツタ、フジなどが見られる。10月17日に行われる花火大会は、火術、火筒、のろしなど、火の忍術を得意とした長門守が花火を奉納したのがはじまりといわれており、伊賀地域で一番遅い奉納煙火として有名である。

祭 祀：大祭10月17日、中恒例祭12回、春祭2月17日、
秋祭 11月25日、夏祭 7月17日

由 緒：(三重県神社誌)

創立は正応二年(1289)と伝えられる。「往昔郷士藤室氏の祖信濃戸隠神社より勧請」と伝える。手工業者の神として崇敬を集めている。

境内案内板

由 緒：

正応年間(1288-1293)に、信濃国(長野県)戸隠村の戸隠神社より分社勧請されたと伝承されております。定かな記録としては、天明元年再建奉造の棟札、また享保17年奉納と銘記された太鼓が残されております。そして当社の掛け鈴には、多くの信者の方々の願いを込めた鈴の緒が数百年の歴史を秘めて大輪を成しております。



手水舎



堀

大 祭：

10月17日 通称「手力さんの十七夜」と呼ばれ、当夜多数の願火煙火が奉納され秋の夜空を彩ります。尚、この願火は伊賀忍者の頭領藤林長門守や、戦国の武将蒲生氏郷等がすでに奉納していたと言い伝えられております。

神事・御神徳：

心願成就・身体剛健の神として古くから多くの信仰を集めており、祈願方法としては、祈願符を添付した願火の奉納と、願いを祈願布に書き入れ鈴の緒に結びつけるという当社独自のものがあります。特に、子供が生まれたときにミコトのように強く立派に育ちますようにと願いを込めて鈴の緒を奉納する誕生参り・そのお礼参りととその後の成長を願う七つ参り・十七参りの神事・習慣が残されております。近年は、交通安全の神様としても遠近の信者から尊ばれております。また、ミコトは、常闇の世界より光を取り戻された神であり、夜明けの神、新年を迎える神としてうやまわれ、初詣参拝にも神効あらたかです。